

益田市内石造物調査概報 2

—長野荘域の石造物調査 1—



図1 石造物の位置図（地理院地図に加筆）

令和2（2020）年3月
益田市教育委員会

例 言

1. 本書は、益田川・高津川下流域寺社調査事業、河口域関連史料調査事業の一環として実施した益田市本俣賀町、梅月町、横田町、向横田町、神田町、安富町（以下、「当該地域」）の石造物調査の報告書である。
2. 本書に係る調査の経過は以下のとおりである。
平成 27 年度 当該地域の中世石造物の実測と石材の鑑定
平成 30 年度 当該地域の中世石造物の実測
令和元年度 当該地域の中世石造物の実測と石材の鑑定
3. 調査は次の組織で実施した。
事務局 木原 光（文化財課課長兼歴史文化研究センター所長）、山本浩之（文化財課課長補佐）、長澤和幸（同主幹）、佐伯昌俊（同主任主事）、中司健一（同歴史文化研究センター主任）
調査指導者 西尾克己（元島根県古代文化センター長）
中村唯史（島根県立三瓶自然館サヒメル企画情報課調整監）
間野大丞（島根県埋蔵文化財調査センター調査第 3 課長）
調査員 長澤和幸、佐伯昌俊、中司健一
4. 実測図・写真は益田市教育委員会文化財課（益田市常盤町 1-1）で保管している。
5. 調査にご協力いただいた各所蔵者、各管理者、ご指導をいただいた西尾克己、中村唯史、間野大丞の各氏にお礼申し上げます。
6. 石材全般については、中村氏からご教示いただいた。
7. 石造物の実測・トレースは、間野氏と、西尾氏の指導により佐伯が行い、本書の執筆・編集は中司が行った。

第 1 章 調査の目的

当該地域は、一級河川高津川水系の中流域に位置し、中世には荘園・長野荘を構成する地域の一部であった。このうち、本俣賀町、梅月町、横田町、向横田町、神田町は、隅村町、左ヶ山町等とともに、中世の豊田郷・横田郷（それぞれの具体的な範囲は不明）に相当する地域と考えられる。貞応元（1222）年、遠江国の御家人内田宗（致）茂が豊田郷地頭職を与えられ、その子の代に庶家の俣賀氏が出た。安富町は中世の安富郷と重なりと推測され、益田氏と同族の安富氏の所領であった。これらの領主は、南北朝時代には割拠し、15 世紀中頃には益田氏の家臣となっていく。そして、彼らは古文書やその写を現代に伝えており、当該地域の具体像をうかがうことができる。

このように当該地域は、中世には中小規模の領主が割拠していた地域であり、領主間の関係をうかがうことができること、また、内田氏・俣賀氏は西遷御家人として新たに移ってきた領主であるため、地域に支配をどのように浸透させようとしたかを考察することができること、そして古文書や絵図、現地の景観、伝承等、これらを検討するための材料が豊富に存在することから、平成 28 年度から平成 30 年度まで国立歴史民俗博物館の共同研究「中世日本の地域社会における武家領主支配の研究」（研究代表者：同館准教授田中大喜氏）の基軸事例に位置づけられ、文書調査、出土遺物調査、聞き取り調査、現地調査等が実施された。

本書は、この共同研究の成果を踏まえ、また、その一助となること、それにより、中世高津川下流域の実態解明に資することを目的とするものである。

第2章 調査の概要

第1節 調査の方法

現地調査にあたっては、調査対象地の石造物の分布状況を確認し、デジタルカメラによる写真撮影と代表的な石塔の実測を行った。また、可能な範囲で石材を鑑定した。

第2節 石造物及びその所在地の概要

①ゴンゲンサン（伝侯賀致義墓）（本侯賀町東上）

旧梅月小学校跡地の裏山中腹にある宝篋印塔。旧梅月小学校跡地は、侯賀氏の氏神本山八幡宮の旧地であるといい、またその段丘崖下に小字「ドイノウチ」が残り、上侯賀氏の領主拠点と推測されている（国立歴史民俗博物館 2017）。

石塔は、地元では「ゴンゲンサン」と呼び親しまれ、現在も注連縄が飾られ、丁重に祀られている（写真1・図5-1）。侯賀致義の墓と伝わる。上侯賀氏の供養塔か（国立歴史民俗博物館 2017）。

花崗岩製で、相輪の一部を欠くが、他の部材は完存する。塔身は天地逆に置かれている。基礎の底面がわずかに埋まる。総高 104.6cm 以上。相輪の請花は単弁。笠は上 6 段、下 2 段。隅飾は素面に見えるが風化摩滅している可能性もある。基礎は四面とも輪郭を巻き、格狭間で飾る（間野 2018）。

②W家墓地内伝歴代侯賀氏墓（本侯賀町東下）

本侯賀町の小字「上の場」「的場」「下の場」の近くの丘陵中腹の墓地に所在する石塔残闕群（写真2）。下侯賀氏の供養塔群か（国立歴史民俗博物館 2017）。近くを通る農道設置の際に、現状より高い場所から移ったとのこと（聞き取り）。

石塔は、五輪塔の風輪（空輪を欠損）1（図2）、宝篋印塔の宝珠・請花のみ1、宝珠・請花と九輪の一部1、九輪と請花・伏鉢のみ4、請花・伏鉢のみ1、笠3が現存する。組み合わせは不明であるが、宝珠・請花のみの個体と、九輪と請花・伏鉢のみの1個体は、もとは一体か（図5-2・5-3）。笠のうち1個体は石材を鑑定できなかったが、他は全て白色凝灰岩である。



図2 W家墓地内伝歴代侯賀氏墓の五輪塔風輪（間野大丞氏作図）

③聖清寺（梅月町）

聖清寺（しょうせいじ）は、曹洞宗寺院。雪舟が立ち寄ったという伝承がある。江戸時代には妙義寺の末寺であり、天正9（1581）年の妙義寺末寺十五寺の一つと思われる。寺院境内地南側の墓地は上の段と下の段に分かれ、それぞれ相輪と笠がセットとなった宝篋印塔が1組ずつ残る。

下段の石塔（写真3）。相輪と笠がセットになっているが、石材は異なる。相輪（図5-9）は九輪（一部欠）と請花のみであり、九輪の溝は線状に掘る。笠（図5-10）は隅飾りを含め良好に残る。上6段、下2段。隅飾りはやや外に傾き、二弧式で輪郭を巻く。輪郭は線状に掘る。

上段の石塔（写真4）。相輪と笠がセットになっている。同一個体かは不明。相輪は、九輪の一部を欠く。九輪の溝は箱掘りされている。笠は、隅飾りはいずれも上部を欠くが、やや外に傾き、輪郭を巻く。輪郭は線状に掘る。上5段、下は埋もれていて確認できない。

④長寅寺（横田町上野）

臨済宗東福寺派。寺伝によると、当初は松洞庵で、文和元（1352）年に内田致忠（史料上確認できず）が創建したという。内田氏の居城豊田城跡のある山の中腹に位置し、近隣の曹洞宗守源寺とともに同氏の菩提寺と考えられ、同氏の墓と伝わる石塔群（写真5）がある（国立歴史民俗博物館 2017）。

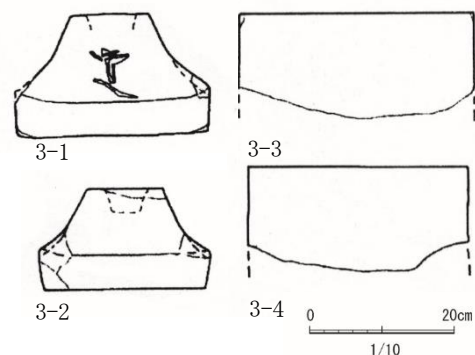


図3 長寅寺の五輪塔残闕（間野大丞氏作図）

五輪塔の残闕は、日引石製と思しき火輪 1 (図 3-1)、砂岩の火輪 (図 3-2)、花崗岩製の地輪 2 (図 3-3・3-4) があり、五輪塔が少なくとも 4 基あったことが知られる。

宝篋印塔の残闕は、角閃石のない安山岩製の笠 1 (図 5-7) と基礎 1 (図 5-8)、青野山のものと思われる安山岩製の基礎 1 (図 5-6) がある。笠 (図 5-7) は、上 5 段、下 2 段、隅飾りは二弧式で輪郭をとらず、わずかに外にそる。基礎 (図 5-8) は、階段 2 段。基礎 (図 5-6) は、返花座が本来の花弁の形ではないが、まだ丸みを残す。

⑤〇家墓地 (神田町神田)

〇家墓地は、神田町の山の西側斜面中腹に築かれた墓地で、上段と下段に平坦面が築かれている。上段には小型の五輪塔・宝篋印塔の部材 23 点が混在する形でまとめられている (写真 6)。下段には近世墓が置かれている。聞き取りによると、かつて寺院が存在したという (佐伯 2016)。

石塔はいずれも小型であり、16～17 世紀のものとも推測されている。近世墓には、「寛文八申」(1668) の銘を持つ、尖頂方形のものがあ (図 4)、五輪塔・宝篋印塔から近世墓への変遷の過程を考察する上で興味深い。

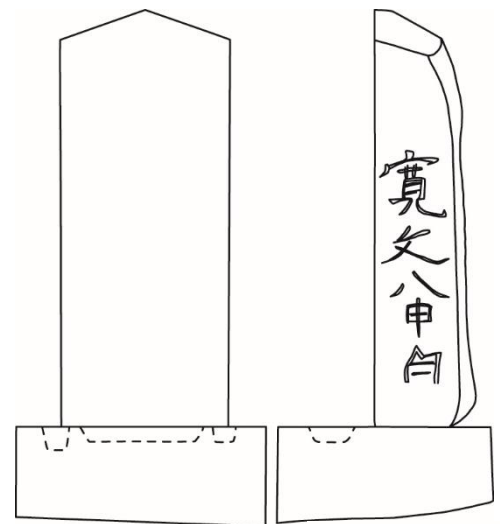


図 4 〇家墓地の尖頂方形の墓 (西尾克己氏作図)

⑥得台寺、⑦向横田霊園 (向横田町向横田)

向横田は高津川が匹見川と合流する地点の左岸にあり、南側の丘陵に山城跡の向横田城跡 (市史跡) がある。様々な伝承があるが、向横田に関する中世の一次史料は今のところ見つかっていない。

得台寺は浄土真宗本願寺派。花崗岩製の五輪塔の火輪・水輪・地輪 (梵字あり) が残る (写真 7)。

向横田霊園は向横田城跡の麓から中腹にある墓地である。基礎 3 点があり、いずれも石材が異なる。凝灰岩のもの (写真 8) は、長寅寺の基礎 (図 5-6) に作りは似るが、石材は異なる。砂岩のもの (写真 9) は反花座の花弁がしっかり立体的に表現されている。安山岩のもの (写真 10) は反花座の花弁は表現されているが平面的である。

⑧R家墓地 (安富町)

R家墓地は安富平野を見下ろす丘陵北斜面に位置し、曹洞宗養光寺に隣接する。宝篋印塔 2 基 (写真 11・図 5-13。写真 12・図 5-12)、と笠 1 (写真 13) が存在する (佐伯 2016)。宝篋印塔 2 基はいずれも非常に大きい、本来の宝篋印塔の意匠からかなり離れている。17 世紀のものか (間野 1996)。

⑨金剛寺跡 (安富町)

金剛寺は、後身寺院である曹洞宗養光寺の文書によると、天正 20 (1592) 年に 2 石の寺領を益田氏から与えられている。妙義寺の末寺であり、天正 9 (1581) 年の妙義寺末寺十五寺の一つと思われる。元禄年間に住職が問題を起こし、また自領内に他領の寺院の末寺があることを津和野藩が嫌ったこともあり廃絶し、養光寺が後身寺院となった (中司 2018)。宝篋印塔 1 基 (写真 14・図 5-11)。相輪が九輪と下の請花の間で折れているが、全体が揃う。津和野町河村脇本の上山 A 石塔群の A-1 号塔が形態的に近い (間野 1996)。17 世紀のものか。

【参考文献】間野大丞「高津川上・中流域の宝篋印塔」(『安道町歴史叢書』1 号、1996 年)。佐伯昌俊「石見地方西部における中世墓終焉期の諸様相」(『第 7 回中世葬送墓制研究会資料 山陰地域における中世墓終焉期の様相』中世葬送墓制研究会、2016 年)。国立歴史民俗博物館『中世益田現地調査成果概報』Vol.1、2017 年。中司健一「養光寺文書の翻刻と解説」(『郷土石見』107 号、2018 年)。間野大丞「益田平野石造物調査の成果と課題」(講演会資料、2018 年)。

表1 当該地域石造物一覧表							
No.	所在	種別	部材	石材	図版	写真	備考
①	本俣賀町東上 ゴンゲンサン	宝篋印塔	相輪一部欠、 塔身天地逆	花崗岩	5-1	1	伝俣賀致義墓
②	本俣賀町東下 W家墓地	五輪塔残闕	風輪のみ	白色凝灰岩	2	2	
		宝篋印塔残闕	宝珠・請花のみ	白色凝灰岩	5-2		
		宝篋印塔残闕	宝珠・請花と九輪の一部	白色凝灰岩			
		宝篋印塔残闕	九輪・請花・伏鉢のみ	白色凝灰岩	5-3		
		宝篋印塔残闕	九輪・請花・伏鉢のみ	白色凝灰岩			
		宝篋印塔残闕	九輪・請花・伏鉢のみ	白色凝灰岩			
		宝篋印塔残闕	九輪・請花・伏鉢のみ	白色凝灰岩			
		宝篋印塔残闕	請花・伏鉢のみ	白色凝灰岩			
		宝篋印塔残闕	笠	不明			
		宝篋印塔残闕	笠	白色凝灰岩	5-4		
		宝篋印塔残闕	笠	白色凝灰岩	5-5		
③	梅月町 聖清寺墓地	宝篋印塔残闕	九輪(一部欠)・請花のみ	砂岩	5-9	3	下の段
		宝篋印塔残闕	笠	安山岩	5-10	4	下の段
		宝篋印塔残闕	相輪(九輪の一部欠)	砂岩カ			上の段
		宝篋印塔残闕	笠	不明			上の段
④	横田町上野 長寅寺	五輪塔残闕	火輪(梵字あり)	日引石カ	3-1	5	
		五輪塔残闕	火輪	緻密な砂岩	3-2		
		五輪塔残闕	地輪	花崗岩	3-3		
		五輪塔残闕	地輪	花崗岩	3-4		
		宝篋印塔残闕	笠	安山岩(角閃石なし)	5-7		
		宝篋印塔残闕	基礎	安山岩(角閃石なし)	5-8		
		宝篋印塔残闕	基礎	青野系安山岩	5-6		
⑤	神田町神田 O家墓地	五輪塔残闕	空風輪カ	白色凝灰岩		6	
		五輪塔残闕	空風輪	安山岩			
		五輪塔残闕	空風輪	白色凝灰岩			
		五輪塔残闕	空風輪	青野系安山岩カ			
		五輪塔残闕	空風輪	花崗岩(白)			
		五輪塔残闕	空風輪	白色凝灰岩			
		五輪塔残闕	空風輪	白色凝灰岩			
		五輪塔残闕	空風輪	白色凝灰岩			
		五輪塔残闕	空風輪	砂岩			
		五輪塔残闕	空風輪カ	白色凝灰岩			
		五輪塔残闕	空風輪カ	白色凝灰岩			
		五輪塔残闕	火輪	花崗岩			
		五輪塔残闕	火輪	花崗岩(白)			
		五輪塔残闕	火輪カ	白色凝灰岩			
		五輪塔残闕	水輪	花崗岩(白)			
		五輪塔残闕	水輪	砂岩			
		五輪塔残闕	水輪	花崗岩			
		宝篋印塔残闕	宝珠	安山岩			
		宝篋印塔残闕	宝珠	砂岩			
		宝篋印塔残闕	宝珠	白色凝灰岩			
		宝篋印塔残闕	相輪	白色凝灰岩			
		宝篋印塔残闕	相輪	安山岩			
		宝篋印塔残闕	相輪カ	白色凝灰岩			
		宝篋印塔残闕	相輪	白色凝灰岩			
		宝篋印塔残闕	相輪	青野系安山岩			
		宝篋印塔残闕	笠	安山岩			
		宝篋印塔残闕	塔身	安山岩			
⑥	向横田町向横田 得台寺境内	五輪塔	空風輪欠	花崗岩		7	伝庄屋源左衛門塔
⑦	向横田町向横田 向横田霊園	宝篋印塔残闕	基礎	凝灰岩(緑の岩の中に 長石と角閃石が多数)		8	地藏菩薩立像 が乗る
		宝篋印塔残闕	基礎	砂岩		9	地藏菩薩坐像 が乗る
		宝篋印塔残闕	基礎	安山岩(このあたりで はあまり見ないもの)		10	石仏が乗る
⑧	安富町 R家墓地	宝篋印塔	宝篋印塔	青野系安山岩	5-13	11	
		宝篋印塔	宝篋印塔	青野系安山岩	5-12	12	
		宝篋印塔残闕	笠	凝灰岩		13	
⑨	安富町 金剛寺跡墓地	宝篋印塔	宝篋印塔	青野系安山岩	5-11	14	

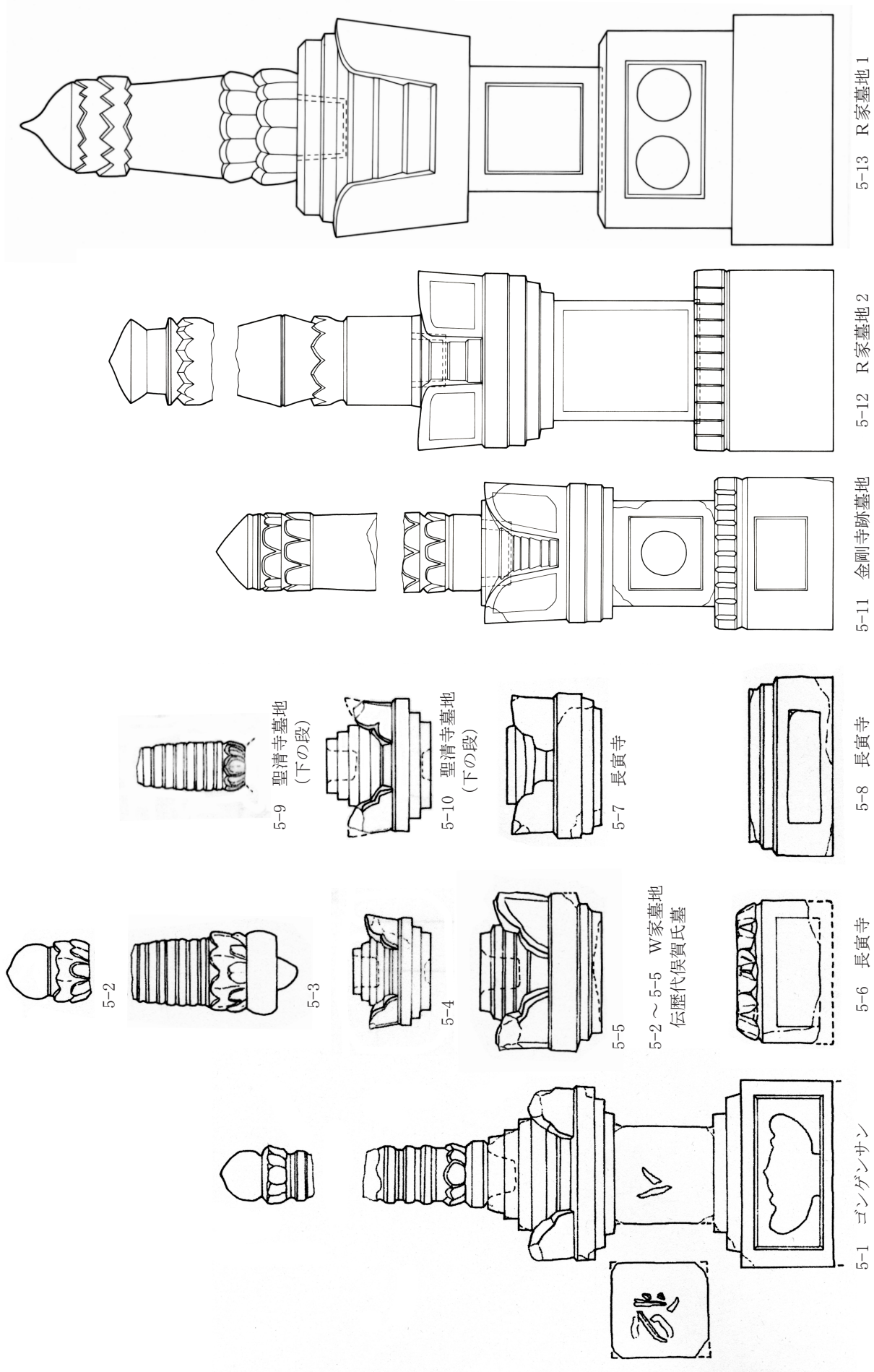


図 5 当該地域の宝篋印塔 (5-1 ~ 5-10 は間野大丞氏作図、5-11 ~ 5-13 は佐伯昌俊作図)



写真1 ゴンゲンサン



写真3 聖清寺墓地(下の段)



写真4 聖清寺墓地(上の段)



写真2 W家墓地伝歴代侯賀氏墓



写真5 長寅寺



写真6 O家墓地



写真7 得台寺境内



写真8 向横田霊園1



写真9 向横田霊園2



写真10 向横田霊園3



写真13 R家墓地3



写真11 R家墓地1



写真12 R家墓地2



写真14 金剛寺跡墓地

※写真の縮尺は同一ではない。

市内石造物調査概報2
—長野荘域の石造物調査1—

発	行	令和2年3月31日
印	刷	令和2年3月31日
編集・発行	益田市教育委員会	
印	刷	のさか印刷(島根県益田市高津五丁目28番8号)